

独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359



2021年、国立病院機構横浜医療センター外科は、大きな転換期を迎えました。

2005年から16年間の長きにわたり当院を牽引してこられた関戸仁統括診療部長が、7月1日付けで横須賀市立市民病院管理者・院長にご栄転されました。外科スタッフを、時に厳しく、そしていつも愛情を持ってご指導いただき、一同感謝の気持ちは一生忘れません。



新型コロナ感染症との戦いが続き、8月の1か月間、良性疾患の外科手術制限がかかり、また外科病棟が新型コロナ専用病棟になり、外科は多病棟に患者が散らばるジプシー生活を余儀なくさせられました。高難度肝胆膵手術を専門とする医師が不在となり、大変苦しい時期でしたが、スタッフ一同が力を合わせて、なんとか乗り切る

ことが出来ました。

12月1日付けで横浜州市立市民病院から肝胆膵手術高度技能指導医である藤井義郎先生が外科部長として着任されました。消化器内科からの肝胆膵疾患の手術依頼が早速増加してきており、高度技能医の育成も始まりました。

現在、藤井外科部長の御指導の下、10名のスタッフが2チームに分かれて診療に当たっています。2021年の主な手術件数は、乳癌切除34例↑、胃癌切除35例、大腸癌切除104例（うち腹腔鏡下手術98例）、肝切除22例、膵頭十二指腸切除12例、腹腔鏡下胆嚢摘出68例、開腹胆嚢摘出43例、虫垂切除58例、単径ヘルニア根治術103例↑でした。新型コロナ感染拡大の影響が続きますが、手術総数は690件と2020年よりは増加しました。

外科専門修練医の育成にもあたっており、今春1名が新規採用になります。

今回の写真は、スタッフ皆から愛された関戸先生の病棟送別式の様子、藤井先生を中心にして新調したスクラブを着て一致団結をはかった外科スタッフ・オペナースの写真です（撮影時に一瞬マスクをはずしています）。

今後とも地域で選ばれる病院になるべく、スタッフ一同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思います。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：松田悟郎）





令和3年の横浜市立市民病院は、新型コロナウイルスの感染への対応に明け暮れた1年でした。新病院への移転で新規患者数や医業収入の増加が期待されましたが、新型コロナウイルス感染症のため入院患者数や手術数の制限が行われたため思うようには伸びませんでした。新型コロナウイルス入院患者の増加のため、当外科もコロナ入院患者を受け持ち、病院全体で治療に当たりました。一刻も早い新型コロナウイルスの感染終息が望まれるところです。

さて令和3年の外科は、消化器外科6人（うち大学ローテート3人、12月に藤井から福岡に交代）、炎症性腸疾患外科4人（うち大学ローテート1人）、乳腺外科4人（うち大学ローテート3人）のスタッフと4人の後期研修医、2ヶ月毎にローテートする3人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の3つに別れてから13年経過しました。2021年の総手術件数は、外科全体で1278例でした。内訳は消化器外科約815例、炎症性腸疾患外科約325例、乳腺外科約138例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年とほぼ同数で、腹腔鏡下の手術の割合は83%でした。平成29年から導入した腹腔鏡補助下直腸固定術（直腸脱の根治術）は63例行いました。

胃癌手術症例数はやや増加し、肝胆膵領域では臍頭十二指腸切除術を8例行いました。

乳腺外科は、前年より大幅に増加しました。これはスタッフの人数が増えたことや横浜市乳がん連携病院の指定を受けたことが原因と考えられます。

炎症性腸疾患外科は、前年に比べスタッフの数が減少しましたが手術件数は前年とほぼ同数で、従来通り関東圏はもとより全国から患者を受け入れています。

緊急手術は174例で前年とほぼ同数でした。急性虫垂炎は昨年の81例から85例とやや増加しました。しかし、現在のスタッフの人数から考えると現在の手術件数が限界と思われます。

2020年度から始まった初期研修医のプログラム（外科コース）には、2021年度も多数の応募の中から2名がマッチングしました。これにより、研修医3年目以降に外科専門医プログラムを選択する研修医が、一人でも多くなることを期待しています。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思っています。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

（文責：望月康久）



2021年度の人事異動では、田が退任し、代わりに森（康一）が着任しました。診療体制は、山岸、牧野、菅江、大田、浅野、森に加えて、外科専攻医3年目の川島（淳）、川島（圭）と1年目の津村を加えた9名で診療しました。例年同様に、川島（淳）、川島（圭）、津村が呼吸器外科と救急外科をローテートし、肺・縦隔手術と緊急手術、外傷治療に携わりました。

今年度の話題は、収束しない新型コロナウイルス感染症への対応です。当院は、重症症例への対応が可能な「高度医療機関」と、中等症や疑い症例を受け入れる「重点医療機関協力病院」に指定され、救急ICUを中心に様々な患者さんを診療しています。コロナ陽性患者さんは救急医、呼吸器内科医、加えて内科系診療科が当番制で診察していますが、第5波の時は患者さんが激増し、内科当番医から「外科系診療科は協力していない」との不満の声が聞かれました。外科系診療科は良性疾患などの手術症例を控えるように病院から要請があり手術を減らしたのですが、その結果時間が余るのだからコロナ診療に加わるべきとの意見でした。内科当番医の言い分は理解

できるのですが、かといって外科系診療科が協力していないわけではありません。このように診療科の軋轢が多少生まれたのは事実です。そのため外科系診療科で話し合い、全診療科で分担している保健所から依頼される一般市民の濃厚接触者に対するドライブスルーPCR検査を、外科系診療科が受け持つことになりました。

2021年1月～12月の手術件数は、総数900例（2020年765例）で、定時手術620例、緊急・臨時手術280例でした。例年同様に緊急・臨時手術が多い状況が続いています。また、乳腺外来は患者さんが非常に多いので、月曜日は浅野、金曜日は川島（圭）が固定で診療し、菅江の負担軽減に努めています。学術関連は、学会発表が57演題（パネルディスカッション3演題、ワークショップ6演題）で、論文発表は2題でした。

これからも、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いいたします。

（文責：山岸 茂）

伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡 196-1

TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

◆ 関連施設勤務者

副病院長・診療部長・外科部長 神谷 紀之（平.4）

当院は2021年3月に、開院20周年を迎えました（開院時は「市立伊東市民病院」）。当時は第2外科からの派遣3名と呼吸器外科医師1名の4人体制で、手術件数は年間約170件でした。開院後救急の受け入れを始め手術件数は増加し、2002年までは年250～300件の手術を4名体制でおこなっていました。

私が着任したのは2003年4月です。当時は手術・入院が増え外科病棟もかなりゴタゴタしていたと聞きましたが、南湖正男前々部長や病棟師長のお力で外科病棟の診療・看護体制がしっかりと構築されていました。その後呼吸器外科医師が退職し、以降は消化器腫瘍外科医局員のみとなりスタッフ数2～5名、手術数200件～300件で推移していました。

2013年3月、病院移転を機に「伊東市民病院」と名称変更しました。この頃から、地域医療振興協会内からの支援で卒後3～5年目の若手外科医が交代で勤務し、現在の外科専門専攻医に至っています。2021年は常勤4名に専攻医2名が加わり、当院始まって以来の大所帯となりました。そのため、コロナ禍で一時期入院停止があったにも関わらず昨年の手術件数は362件と、前年の282年から大幅に増加しました。また若手が加わったことで以前の疲弊した雰囲気から活気のある職場へ変化し、また専攻医の教育という意味では気の引き締まる思いです。

伊東市の人口は減少していますが手術治療を必要とする患者さんは今年度の件数が表すように、まだ減る気配はなさそうです。むしろ困難な合併症を有する患者さんや独居・老老介護など問題を抱え退院後の支援が必要な患者さんが増加しています。確かにスタッフの層が厚くなったことで専門性の高い手術や低侵襲手術、緊急手術など幅広く対応できるようになりました。しかし手術を上手くやる事だけではCureとCareの両立にはならないと感じることも多くなりました。今後も個々の患者さんにとって最善の治療・療養ができるよう他職種と連携し努めてまいります。本年もよろしくお願いいたします。

（文責：神谷紀之）



伊東に勤務されていない先生方には申し訳ありません。旧病院の跡地です。建物は医師用の“新しい”宿舎です。

地域医療推進機構（JCHO）

横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1

TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院となり9年目となりました。病院規模は変わらず許可病床数260床（稼働病床数246）で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、神奈川区の方が多く、地域に密着した医療・健診・福祉の総合施設として機能しています。H31年度に御就任された池院長のもと、コロナ禍の出口に向けて何とか耐え忍んでいます。乳腺外来は非常勤として足立祥子先生に来ていただき、外来のみならず手術も施行していただいております。外科病床は36床、対象疾患は例年同様で消化器癌が中心ですが呼吸器疾患（気胸、肺転移）、血管外科（AAA、ASO、シャント、下肢Varixなど）の治療も行っております。昨年手術総数は400件前後でした。縮小手術としての腹腔鏡手術を積極的に行う一方、高度進行癌に対し

でも術前化学療法や化学療法後のadjuvant surgery、conversion surgeryなども積極的に行っております。相変わらずかなりの高齢者、かなりの進行癌が多く術後管理に難渋することもあります。退院支援の担当各所とも密に連携をとりつつ、元気に帰っていただくことにもやりがいを感じております。他科の先生方やコメディカルの方々との連携が良いという、中規模病院ならではの強みを最大限生かして診療に当たっております。来年はまた医局の先生方のお力をお借りし、周辺地域の医療機関との連携を深め、一層地域医療に貢献していきたいと考えております。益々のご指導、ご指撻をお願い申し上げます。

（文責：谷口浩一）

横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2

TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

I. 当院は前回の東京オリンピックの前年、昭和38年（1963年）12月横須賀市立武山病院として開院しました。以来50余年になる、横須賀市・三浦半島西部地区の中核的病院です。

西には豊饒の海相模湾、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光明媚な場所に位置しています。病棟から仰ぎ見る三浦半島の山並みはなかなかのもので、最上階の和食レストランから望む相模湾越しの絶景もよいものです。

横浜横須賀道路の料金改定や平成29年に近道が出来たことで横浜周辺からもぐっと近く、より経済的に通勤可能になってきました。

2021年3月末現在のメンバーは管理者・関戸仁（昭和58）以下、副院長・診療部長の長嶺弘太郎（平6）、中山岳龍（平20）、油座築（平24）、藤原淑恵（平24）、日大出身の杉浦浩明（平6）ら個性溢れる面々で日夜診療に励んでいます。

II. - 関戸管理者就任 -

長年当院に多大な貢献をされてきた久保章先生（元管理者、昭和51）が2021年4月に、亀田久仁郎先生（前院長、昭和63）が6月に退職されました。長年にわたり当院を支えて下さり、多くの医局員の教育・育成に携わって頂いた多大なる貢献に対し、誌上ながら深く感謝申し上げます。

そんな中、7月には関戸仁先生が管理者・院長に着任されました。外科診療には着任早々より手術も含め積極的に参加、陣頭指揮をとられています。また同



2021年度（令和三年度）メンバー（2022年3月撮影）

時に管理者として、喫緊の課題であるコロナ対策、経営改善・健全化に尽力、奔走されています。

III. 高齢化社会の波を受け、超高齢者の重篤な症例も本当に多くなってきました。患者さん、そしてそのご家族の期待に応える困難さを痛感していますが、これら困難な症例にも一丸となって対応しています。

年間の手術症例は350例ほどですが、術者はほぼ若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練が積みめす（最近のローテーターに確認して頂ければ…）。

医局員の皆さん！是非我々と一緒にここで働いてみませんか。

開院以来周辺住民の皆さんから熱く信頼されている地域密着型の病院です（来れば本当に実感します）。必ず皆さんのやる気をおこさせてくれる病院です。そして厳しく、激しい仕事の後には横須賀、三浦半島のグルメを堪能してください。もちろんデートスポットも海沿いを中心としてたくさんあります（感染予防策を十分に行いつつ…）。

最後になりましたが、同門の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（文責：長嶺弘太郎）



茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1

TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

1943年12月、第二次世界大戦の最中に茅ヶ崎市立病院の前身「町立茅ヶ崎病院」は発足しました。松並木生い茂る旧東海道国道沿いにあった病院は素朴なぬくもりを感じる二階建ての古い木造建築であったと聞いています。1945年7月、133機のB29爆撃機が飛来した際には野戦病院さながら、焼夷弾降り注ぐ空襲の中急患を診ていた時代もあったようです。それから約70年もの時を経て、2016年乳腺外科が開設されました。現在茅ヶ崎市内唯一400床以上の病院であり湘南東部医療圏の基幹病院として機能しています。COVID-19流行が本格化した2020年4月から2022年オミクロン株大流行の際にも神奈川モデルにおける高度・重点医療機関協力病院として相当数の陽性患者受け入れを行ってきました。当科も帰国者・接触者・発熱外来を担当、入院制限の影響もあり約1割の手術減少がありましたが、それでも2人体制で月間平均60件の化学療法数を通年で維持しております。

化学療法患者には治療そのものの以外にも、患者の人生やその家族ケアまで含めた診断から終末期までの全人的アセスメントが求められ、定時手術患者よりも概して多くのスタッフの関わりや仕事量、精神的労力を要します。そのため本年もスタッフ間情報共有のため、院内全ての乳がん患者に関わるスタッフが身構えず自由に参加できる多職種カンファレンスや緩和ケア協力を開催し、全人的患者ケアの充実を目標としたチーム医療のための環境整備を進めてきました。治療成績以外にも、当科は収益面でも安定した診療が行えており、チームの協力により医師個人収益、科別収益（医師一人当たり）にて2021年下半年で院内1位を達成できました。そして、かねてより建設プロジェクトリーダーとして進めてきた新外来化学療法室建設が令和4年2月に完了、3月中旬よりローンチされます。副作用の中、長期間通院する化学療法患者の心の緩和に繋がるような「治療に行こう！」と少しでも前向きに思える心地よい治療室を目指し、化学療法室の扉が「社会人」と「病人」の境界とはならないように、というコンセプトに設計とデザインを行ってきました。教育面においても、化学療法室を「ベテランだけがいける部門」として聖域化せず、関心を持つ若手（医師、看護師、薬剤師等あらゆる職種）にとっても充実した現場となるよう安全に注視し目指していきます。併せて、移転新



設される新乳腺外科外来ブースと共により一層、湘南東部圏に対しての将来の地域医療還元へと繋げていく所存でございます。最近では茅ヶ崎においても40才未満AYA世代の化学療法適応患者や De novo StageⅣ患者の増加を実感しています。妊孕性温存、乳房再建、BRCA1/2変異乳癌、リスク低減予防的乳房切除、腫瘍精神学、子育て、就労支援、アビランスクエア、子供への告知プロセス、夫やその両親まで含めた家族のサポートなど、患者の人生や価値観を共有した上で治療を検討し提示していかなければならないことが多いですが、そこに寄り添える医療の充実を目指すことが、自ずと、全ての世代の患者への十分なケア構築につながりますし、また医員やスタッフの教育面においても「病」を診るだけでなく「人」を診る」全人的医療理解につながると考えております。

エビデンスに基づいた最適、最新、安全な治療を患者へ提供していく姿勢は当然の事と心がけ、願わくば、長い外来通院で培われる患者との信頼関係を実感し、患者個々の人生観や生き方に寄り添いサポートする姿勢を身に着け、患者の立場に立ち、適切な距離感を計りながらも、時に強く介入し、先導をし、時に優しく見守りながら選択肢を提示し、患者とその家族に寄り添っていくことが体感できるような診療科にしていきたいと考えています。一方で、医療経済、ライフワークバランス、働き方改革、DX、ヘルスケアデータネットワーク、SDGsなど新たな時代に必要とされるバランス感覚を失うことなく医療を実践し学べるような環境でもありたいと考えています。“一例を大切に”をモットーに、ローテーターも安全にじっくり診療ができるようなサポートを心がけて行く所存です。これからも茅ヶ崎市立病院乳腺外科への御指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

（文責：嶋田和博）



◆ 関連施設勤務者

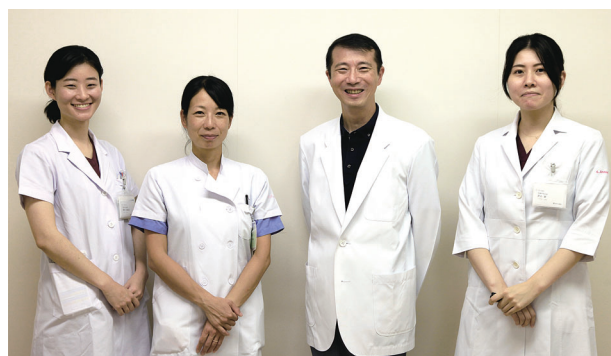
乳腺外科部長	千島 隆司 (H.3)
乳腺外科医師	柴田侑華子 (H.27)
乳腺外科医師	井上 栞 (H.27)

横浜労災病院は、横浜市北東部医療圏の地域中核病院として1991年に開設されました。現在は地域医療支援病院、災害拠点病院、神奈川DMAT指定病院、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、横浜市乳がん連携病院として、救急・災害医療から高度がん診療までの広い分野で勤労者医療、地域医療に貢献しています。

2021年度の横浜労災病院は、4月に横浜市立大学出身の梅村敏先生から東京大学出身の三上容司先生へ院長が交代となり、新型コロナウイルス感染症対策、新病院建設計画、診療圏の拡大など、病院の運営方針や将来構想で大きな転換期を迎えています。2023年3月には新横浜駅へ東急新線が乗り入れるため、新横浜は神奈川県央地区から東京都心、さらには埼玉までの広大な鉄道ネットワークのターミナル駅となります。それに合わせて、当院でも患者数増加をめざした「診療圏拡大プロジェクト」を立ち上げて、横浜市西部から川崎市東部までを網羅する地域医療連携の構築に取り組み始めました。

☆ 乳腺外科の近況報告

2021年度の横浜労災病院乳腺外科は、部長以下3名の常勤医で診療を行っています。新型コロナウイルスによる診療制限もあって、2021年の手術件数は悪性腫瘍の根治手術が218件（局所再発を含む）、良性腫瘍やリンパ節生検などが22件、一次乳房再建術が25件、画像ガイド下組織生検が66件であり、例年よりも2割程度減少していました。薬物治療に関しては、標準的な薬物治療に加え



て、新薬治験にも積極的に参加することで「患者さんに最新の治療」を提供できるように努めてきました。

横浜労災病院は、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学市民総合医療センターと共に、2022年度から乳腺外科専門医・研修カリキュラム群の基幹施設として登録されます。当院では乳腺外科、消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、救急医療部が独立した診療科となっており、専門医を取得するための症例を効率的に経験することが出来るので、乳腺外科専門医をめざす若手医師にとっては働きやすい関連施設だと思っています。これからも横浜労災病院乳腺外科は、1. 乳房再建などを中心とした患者QOLを重視した診療の実践、2. 国内外の臨床試験や新薬治験などの臨床研究の推進、3. 就労問題・遺伝相談・がんの生殖医療・アピランス相談・メンタルヘルスなど患者支援の充実、4. 乳がん診療に携わる全国の医療スタッフを対象としたチーム医療教育の推進、5. 病診連携の充実と高齢・併存疾患を持つ患者に対する地域包括ケアの構築を5本柱として、神奈川の乳がん診療に貢献していきたいと思っています。引き続き、ご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責：千島隆司)

横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通 1-16

TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103



横須賀共済病院は、1906年に横須賀海軍工廠職工共済会医院として開設。戦後は海軍共済組合から財団法人共済協会、非現業共済組合連合会へ継承され、その後、国家公務員共済組合連合会（KKR）所属となった歴史のある病院です。

横須賀市、三浦半島における中核病院として、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、神奈川県災害医療拠点病院、神奈川県DMAT指定病院として急性期疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

内閣府の戦略的イノベーションプログラム（SIP）「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」に採択され、さらに2019年のNewsweekに当院がWorld's Best Hospital の一つに選ばれるなど、国内外にまで認められるようになりました。

2021年4月は、山梨大学から茂垣雅俊部長が定年退職されましたが、医局からの派遣は変わらず、長堀薫院長、舩井秀宣部長のもと、野尻和典副部長、吉田謙一、小野秀高、諏訪宏和、南裕太、鈴木千穂、酒井淳と、救急科から外科研修1名、東京医科歯科大学の心臓血管外科からの研修1名、シニアレジデント8名が5チームに分かれて診療にあたっております。2020年の手術件数は、COVID-

19の影響もあり、前年より減少しましたが、年間1300件を超える件数で、ほとんどが若手の先生に術者をやってもらっております。

当院の研修医は外科志望の先生が多く、各チームに配属されて一緒に診療にあたっています。2021年は4名ものシニアレジデントが当院の外科専門医プログラムを専攻してくれました。

昨年同様に、COVID-19の影響からか病気が進行してから受診する患者が多く、緊急手術の割合も増えているように思われます。三浦半島の基幹病院ということもあり、COVID-19感染者の緊急手術もまれに行われるようになって来ました。そんな中で、外科医の感染者はいまだに一人も出ておりません。

COVID-19の感染状況は引き続き厳しい状況にありますが、外科としても出来る限りのお手伝いをするとともに、今後もさらに救急医療、がん診療で地域医療に貢献すべく、質の高い水準の医療を提供できるように、若手外科医の教育を含めて精進する所存です。今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：南 裕太）

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下 3-12-1
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

横浜市立みなと赤十字病院は、横浜市民のための市立病院であると同時に、日本赤十字社が指定管理を行う赤十字病院でもあります。

2021年4月から、外科では、杉田光隆先生、大田貢由先生、佐藤圭、田鍾寛先生、大西宙先生、藤田亮先生とシニアレジデント1名の計7名で診療にあたっております。また、乳腺外科では、清水大輔先生、須藤友奈先生、田村裕子先生の3名が診療を行っております。2021年6月からは、田村裕子先生が附属病院に異動するのにあわせ、山田淳貴先生が前年度に引き続き附属病院より当院に赴任され、大西先生、藤田先生が乳腺外科にローテーション勤務されました。10月～12月には外科専門研修プログラムの連携施設である横須賀共催病院よりシニアレジデントの小林圭先生にローテーション勤務していただきました。

2021年3月が旧制度での当院採用シニアレジデントの退職時期にあたり、さらに新制度のシニアレジデントがローテーション制となっている関係で、4月からは特に外科スタッフが3名の減員となってしまいました。東京医科歯科大学より救急外科部長として赴任されている馬場先生にもご協力いただきながら急患にも対応していますが、緩和ケア内科部長として勤務されていた小尾先生が3月で定年退職されたのに伴い4月より馬場先生が緩和ケア内科部長も兼任されることとなり、慢性的に人手不足の状態です。手術、病棟、外来診療、さらに急患対応を行わなければならない、スタッフ一同非常に多忙な毎日を送っております。

当院の最大の特徴として、救急車の受け入れ台数が非常に多いことがあげられます。それに伴い緊急手術も多く、上・下部消化管穿孔、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、絞扼性腸閉塞、ヘルニア嵌頓、腸管虚血症など、外科医が習得すべき緊急手術を数多くこなしております。

外科では、肝胆膵・上部グループと下部グループの2チームにわかれ日々の診療にあたっています。肝胆膵領域では、杉田部長のご指導の元、膵頭十二指腸切除や肝



切除の高難度肝胆膵外科手術を継続的に行っております。また、症例に応じて腹腔鏡下肝切除や腹腔鏡下膵体尾部切除も積極的に行っております。消化管癌は上部、下部とも当院では高度進行癌が症例の多くを占めていますが、これらの症例に対しても化学（放射線）療法を併用しつつ積極的に外科切除を行っています。大腸・肛門領域では、大田大腸外科部長のご指導の元、大多数の症例で鏡視下手術が行われています。ロボット手術も、週に1件のペースで継続的に行われており、本年より赴任された田先生もロボット手術の術者として研鑽を積まれています。上部領域では、佐藤が赴任以降、進行癌症例に対しても鏡視下手術の適応拡大を積極的に進めています。また、本年は、GISTに対するCLEAN-NETや食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術を新規導入しました。

2021年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症の蔓延、それに伴うその他の診療機能の一部制限に伴い、外科手術件数が減少してしまいましたが、赤十字病院としての救急・災害診療を担うという側面と同時に、がん診療連携拠点病院としての役割を果たすべく、質の高い医療を提供できるようにこれからも精進してまいります。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。

（文責：佐藤 圭）

済生会横浜市南部病院

〒234-0054 横浜市港南区港南台 3-2-10

TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

◆ 関連施設勤務者

主任部長

福島 忠男 (S.62)

部長

長谷川誠司 (H.2)

上田 倫夫 (H.6)

外科医員

和田 朋子 (H.20) ; 6月まで

三宅 益代 (H.21)

佐原 康太 (H.24) ; 7月から

富田硫富人 (H.29)



済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の共同で建設され1983年に開院した、27診療科500床の地域中核病院です。急性期医療を担うとともに、「地域医療支援病院」として地域医療機関との病診連携も推進し、2013年4月には神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受け、がん診療支援センター（センター長：福島）を設置しました。大腸がん・胃がん術後の診療連携パスは県内でも特に積極的に活用しており、がん診療体制の充実を計りつつ、地域との連携にも努めています。

例年、南部病院内での各種コンサートや市民公開講座、地元の港南区内の中学生を対象としたブラックジャックセミナー、また、南部病院フェスティバルとして、毎年6月に隣接したショッピングモール内でミニ市民公開講座や相談コーナーや体験コーナーを設け地域の方々との触れあいに努めて参りましたが、2020年からのCOVID-19の影響を受け、今年もこれらイベントを開催できず地域の方々との交流は絶たれたものの、地域医療機関とはオンラインで連携研修会を定期開催するなど、少しずつ対応して参りました。

当院は第二外科と第一外科の両医局から派遣されており、外科スタッフは第二外科からは福島忠男副院長のもと、長谷川誠司、上田倫夫、和田朋子（6月まで）、三宅益代、佐原康太（7月から）、富田硫富人の6名、第一外科からは虫明寛行、吉田達也、高橋航、渡辺卓央、瀬上顕貴、神谷真梨子、伊戸川翔太、石黒哲史、田中玲於奈、磯田まやの10名、計16名でした。

外科手術は例年の1,200件/年程度でしたが、2020年は1,069件、2021年は1,016件とCOVID-19蔓延以降は1,000件ちょっとに減少していますが、大腸癌切除症例は170件（関連手術200件以上）、食道癌3件、胃癌47件と下部・上部とも変化がない中、肝胆膵系の悪性腫瘍手術は74件と漸増しています。一方、乳癌はスタッフの変更もあり、86件と減少しましたが、現在、症例数は増加傾向で今後も症例増加に努めております。一方、良性疾患も例年、多数の手術を行っていましたが、ヘルニア関連手術は184件、

虫垂炎69件とそれぞれ例年の1-2割減、イレウスは32件と半減しました。地域の要請があれば良悪の区別なく治療に当たっていますが、手術件数が限られる情勢も踏まえると、今後は悪性疾患の治療枠維持に努める必要性も感じています。このような状況下にあっても若手スタッフのアクティビティは高く、手術は当然のこと、学術活動も積極的に行っていました。

薬物療法は外来化学療法センター（センター長：長谷川）を中心に施行しています。院内全体で、2015年は年間4,000件程度でしたが、2021年は6,000件を超え、年々、増加している中、外科は4割を超えており、単科としては最多です。件数が増加する一方で、時間外診療や患者様、医療スタッフへの負担の増加が課題でしたが、2022年、外来化学療法センターは13床から16床へと増床することとなりました。これを機に当科を中心として、看護師（外科外来・外来化学療法室・がん化学療法認定）、薬剤師、事務と一体となり、先の課題さらに治療環境の改善等も含め、外来薬物療法の円滑な運営、質の向上のため、種々の改革も取り進めております。

福島は副院長に総合患者支援センター（入退院支援、福祉医療相談、地域医療連携、患者サポート、病床管理）、がん診療支援センターや臨床研究支援センター長も兼務しており、これら各センターも順調に運営されており、地域連携、がん診療、教育など当院の中枢を外科が担っていることをスタッフも実感し、モチベーションの一つとなっています。

2027年以降の新病院の開設に向け、がん診療連携拠点病院の認定取得を目指し、また、救急センター機能の充実・強化を図るなど、周到な計画・準備を進めていますが、今後も地域医療支援病院として、また、がん診療連携指定病院として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の充実及び地域との連携活動を推進し、患者さん達の信頼に応えられるような地域トップクラスの医療を目指していきたいと思います。これからご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。（文責：長谷川誠司）

令和3年4月から佐藤芳樹（副院長）、森岡大介（部長）、山口直孝（平成13年卒）の常勤3人で診療を行っています。当院のような病院の常として手術症例の確保に四苦八苦しております。

常勤医の専門は佐藤→消化管・肛門、森岡→肝胆膵、山口→上部消化管であるため、昨今腹腔鏡下手術が当たり前である大腸手術をどうするかが最大の懸案事項でしたが、市民総合医療センターの渡邊純先生に来院いただきご指導いただけましたので例数は少なかったですが充実した1年であったと思います。胃癌の腹腔鏡手術に関しても南大和病院の高川亮先生を引き続き来ていただいています。また水曜日には福浦の松山隆生先生が非常勤でいらしてくれますので肝移植以外の肝胆膵手術には全て対応可能です。

常々頭を悩ませていることですが、関連病院の中でもひととき小さな病院で、来てくれるrotatorの先生の得手不得手によって当院外科として売り物にできることが変わってしまいます。毎年毎年、前年とは異なったその年の営業戦略を考えなければいけないのが常なので、来年度はまた違った営業戦略を考えなければいけないと思います。Rotatorの先生で当院を希望される人がかなり減ってしまったらしく、その最大の要因は症例数が少ないことに尽きると思います。ただ当院では全ての手術をrotatorの先生に執刀してもらっています。また上記のように当院のスタッフだけでは対応できない手術もexpertを招聘して行っております。小物が多いのが玉に瑕ですが年間執刀数は150を超え、expertの手技にも触れることができますので、異動先を検討される際にはこの点を考慮してもらえればと思います。

当院当科の最大のセールスポイントであるヘルニアセ

ンターですが、一昨年はコロナの影響か年間100例を下回ってしまいました。しかし、昨年は100例超に回復いたしました。前立腺全摘後の鼠径ヘルニアの完全鏡視下手術、側方郭清を伴う直腸癌術後鼠径ヘルニアに対する完全鏡視下手術など、定型的ではないために他施設ではあまりやっていない完全鏡視下手術を相変わらず四苦八苦しておりますがなんとか続けております。症例数も回復し、他院ではあまりやらないようなトリッキーな手術もやっておりますので当院のヘルニアセンターの特徴は出せたのではないかと思います。

また今年度も英文原著を1本publishすることができました（Yamaguchi N, et al. A classification system specific for recurrent inguinal hernia following open hernia surgery. In Vivo 2021 ; 35 : 3501-3508. Doi : 10.21873/in vivo.12652.）。今回は当院のヘルニアセンターのこれまでの経験をいかした論文です。是非ご一読いただければと思います。2年続けてfull sizeのoriginal articleをpublishできたことはどこの施設においてもそれなりに質の高い仕事ができるということを示せたのではないかと思います。

当院のような零細急性期病院は消えゆくしかないのかのような制度改革がなされている昨今で、実際に患者さんの数も減っておりなかなか苦しい状況ではあります。しかしながら、当院ならではの小回りの良さを活かした大病院の後方支援を機敏に行いながら、近隣の開業医の先生方が気軽に紹介できる病院を目指しつつ、2024年の新病院移転に向けて今後もなお一層努力を続け患者さんだけでなく医局員のみなさんにも魅力的な病院にしていきたいと思っています。

（文責：森岡大介）

長津田厚生総合病院

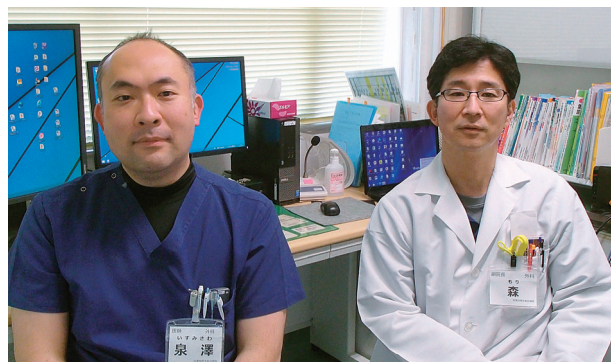
〒226-0027 横浜市緑区長津田 4-23-1

TEL 045-981-1201 FAX 045-983-3647

昭和22年、日ノ出町に診療所として開設され、昭和24年に病院に転換した日ノ出町厚生病院が当院の前身です。その後、横浜市北部の開発に伴い、昭和30年に長津田厚生病院が開設され、昭和43年には拠点を日の出町から長津田に移し、現在の長津田厚生総合病院としての診療が始まりました。

病院規模は許可病床数が190床で、うち急性期一般病床が170床、療養型病床が20床です。現在は急性期一般病床の一部を感染症病棟として使用しております。また、健診センターや人工透析センターも併設されており、地域にとけ込んだ病院として機能しています。院内では、消化器内科や循環器内科をはじめとした内科系診療科、整形外科、眼科、放射線科など他科の医師との連携も緊密に行いやすく、良好な関係の中で診療に当たらせていただいております。

外科は、昨年より森と泉澤の2人体制で、外来・検査・手術と日々の診療をこなしてきました。胆嚢結石症や急性胆嚢炎、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、肛門周囲膿瘍、痔核などの良性疾患が対象の主になりますが、胃癌や大腸癌の患者様にも積極的に腹腔鏡下手術を行っています。幅広い診療をこなすのに外科医2名では力不足のことも少なくないため、昨年もこれまで同様、大学や関連施設



に医師の派遣を依頼させていただきました。協力していただいた先生方、所属施設の先生方には大変感謝しております。

コロナ禍の影響もありやや減少したものの243件の手術を施行しました。内訳は鼠径部ヘルニア74例、虫垂切除術21例、肛門疾患45例、胆嚢摘出術33例、結腸・直腸癌手術14例などでした。高齢で複数の合併症をもった患者様が多い中、安全を第一に考え治療にあたらせていただいております。

今後、益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：森隆太郎)

一般財団法人

育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7

TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

◆ 関連施設勤務者

院長 長堀 優 (S.58)

名誉院長 塩谷陽介 (S.36)

平素より、外来、当直業務において医局の皆様からサポートをいただき深く感謝申し上げます。

老健、特養を併設している当院は、急性期大病院の機能を補てんすべく、高齢者医療に力を入れているのが特色です。急性期病院と密接に連携し、治療後すぐには自宅に戻れない患者さんを当院で引き受けて治療を続けています。

私が赴任してすぐに地域包括ケア病棟を開設、近隣の急性期医療機関に告知したところ、急性期後の患者転院のお問い合わせを多数いただくこととなり、入退院数が一気に倍増しました。

200床以下の当院は、訪問診療を担ういわゆる「在宅療養支援診療所」の医師との連携を結ぶことができます。当院と連携した診療所は、入院ベッドを確保しているものと認定され、医学総合管理料に則り、患者宅ないし施

設を訪問した際に加算を得ることができます。また、連携診療所からは、訪問している患者さんの緊急時（看取り、熱中症や肺炎など）や、レスパイト入院（一時預かり）、リハビリ入院などを当院に依頼されることとなります。このように連携診療所と当院が密に協力し合い、良好な連携を築くことが、そのまま地域医療への貢献につながります。地域の患者さんを含めたウィン・ウィン・ウィンの関係が、地域包括医療を充実させていきます。

新型コロナ感染の影響を受け、入院患者が減少した時期もありましたが、緊急事態宣言解除と共に面会制限を緩和したところ、紹介数が一気に回復し安堵しています。

外来診療でも、横浜保土ヶ谷中央病院等の近隣病院からご支援を頂き、糖尿病、泌尿器、皮膚科、整形外科、緩和ケア、小児科、婦人科等の専門外来を開き好評を得ています。

この先も、医局のご支援を仰ぎながら、地域医療を充実させてまいります。宜しくお願い申し上げます。

(文責：長堀 優)

港 南 台 病 院

〒234-8506 横浜市港南区港南台 2-7-41
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

2021年は私と港南台病院にとっては極めて大きな一年になりました。あえて言うならTransform、さらにいうならMetamorphosisな一年でした。1月に法人内の老健でCOVID-19によるクラスターがあり、その後、港南台病院でもクラスターを経験しました。すぐに港南台病院で病棟を一部閉鎖し簡易陰圧室に改装し新型コロナ感染症症例を積極的に受け入れる方針としました。そのような中で、港南台病院の院長になるように言われました。突然の申し出をいただきとても驚きましたが、この大変な時期に期待されてのことであると考え、お引き受けすることにしました。いばらの道であることは承知の上で、どうにか楽しくやっていけたらなと思いました。5月に「よこはま港南台地域包括ケア病院」が開院し、地域包括ケア病棟としての試験運用を半年にわたり行いながら、この新病院でも新型コロナ感染症を受け入れることとなり、新病院の陰圧室対応やCT導入などの改装を行いました。両病院では中等症までの症例を担当することになっていましたが、重症化する症例も現れ始め、大学病院などへの上り搬送も困難になってきたところで、人工呼吸器管理を要する症例を経験しました。この頃には、挿管患者がいるにもかかわらず、ドルミカム、ディプリバンなどの鎮静薬が院内で枯渇してしまうという非常事態を抱えるに至り、南部病院に緊急にご用立ていただくなど、我々の病院の管理体制の脆弱さを露呈してしまいました。地域の多くの施設に支えられていただきながら診療を行っているということを実感しました。

医局からは大塚（H8）と、朴（H23）が常勤として勤務し、さらに留学帰りの佐原（H24）と山本（H23）がこの大変な時期に大活躍してくれました。港南台病院と、よこはま港南台地域包括ケア病院は、専門医レベルの外来機能、介入の多い在宅患者への訪問診療、レスパイトも含む入院病棟業務、重症も対処しうる新型コロナ対応、基幹病院では行わない手術などをバランスよく提供することで、地域包括ケアシステムの中でユニークな機能を発揮できていると思っています。港南区は人口減少があるとともに南部病院の建て替え計画も進行中であり、これから大きく変化していきます。その中で不足しているにもかかわらず明らかにニーズの高い分野、領域に適度に介入して、法人のさらなる成長を目指したいと思います。今現在をイメージして業務を行っていくと5年10年後には変化に対応できないと思われ、ニーズの将来予測は欠かせません。また、地域の介護株式会社の職員さんの出向、ANA職員さんの出向、ベトナム、ミャンマーからの技能実習生の方々を引き受け、地域や世界との新たなつながりを維持していくことも大切なものとなっています。

このようなことを踏まえながらさらに「変身」を遂げていきたいと思っています。毎年の繰り返しになりますが、お困りの症例があった時ご相談いただければ、我々が提供しうることが何かないか丁寧に検討してお答えします。お気軽にご相談下さい。よろしくお願い申し上げます。

（文責：大塚裕一）

松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041 横浜市西区戸部本町 19-11
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

松島病院は1924年に横浜西区に設立された大腸肛門病疾患専門の病院です。現在の住所に病院を開設したのは1971年、阪神大震災の後に震度7に耐えられるよう補強工事を行い、2011年の東日本大震災を経て、コロナ禍と言われる現在にいたります。

開業以来ひたすら痔など肛門の病気で悩む方々のための診療を行い、本年98周年を迎えます。これもひとえに地域の先生方のご理解ご協力と、全国から受診される患者の方々のおかげと日々感謝しております。

松島病院では大腸肛門科に特化した高度専門施設として、何十万人もの診療実績に基づき最新で最善の医療を、

患者1人1人に行っております。日帰り、短期入院、通常手術、緊急手術に対応し、最近では「確実に治すこと」と「肛門機能の温存」を高次元で結びつけた難治性痔瘻に対する手術を開発するなど、どのような治療がその方にとって最善かを判断し治療を行います。

現在は肛門疾患に特化した専門病院である松島病院と、大腸内視鏡検査および治療に特化した松島クリニックにわかれており、患者の方々や先生方にはわかりにくくご不便をおかけしておりましたが、来年新しく一つの病院施設に生まれ変わることにになりました。同じ横浜西区に新病院を建設中で、2023年2月竣工、5月に完全に移転し

開業いたします。

新病院では肛門科、内視鏡科、炎症性腸疾患などに対応する専門外来、排便機能センターがひとつとなり、科の垣根を越えて診療にあたることが可能となります。更に予防医療としての健康診断や人間ドックでは最新の機器を装備し、疾患の早期発見や早期治療を推進いたします。これからも大腸肛門病領域で先頭を走り、先端を切り拓くことのできる病院となるよう更なる発展を目指しております。先生方におかれましてはより一層のご指導ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

(文責：松村奈緒美)



藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉 2345

TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

藤沢湘南台病院は、昭和7年、鈴木病院として鈴木文蔵により設立され、今年度で創立90周年を迎えました。現在、急性期一般病棟210床、緩和ケア病棟19床、地域包括ケア病棟30床、ICU 8床、回復期リハビリテーション病棟33床、療養病棟30床の合計330床を有しております。コロナ病床を確保するため、長らく、緩和病棟をコロナ病床として転換し、最大19名のコロナ患者さんを受け入れておりました。また、市民向けのワクチンも750名/週のペースで全医師が参加して接種を進めておりました。

時折、「藤沢湘南台病院ってどこにあんの??」と医局の先生方に質問されることがありますので、mapを貼らせていただきます。具体的に言うと、小田急長後駅から徒歩7分。藤沢市の最北端にあり、患者様は藤沢市だけでなく、横浜市、大和市、綾瀬市、寒川町から多くいらっしゃっております。横浜市大の先生が多くお住まいの上大岡からですと、車で30分・電車で30分の距離にあります。

現在、当院には第二外科から大木繁男先生、小泉泰裕先生と鈴木紳祐の3人、第一外科から12人の医師が派遣され、一体となって日々診療に当たっております。研修医は1学年8人おり、外科系希望が多いので毎年外科系医局に入局しており、研修医にとっても楽しくやりがいをもって研修できる病院だと思います。

臨床に関してですが、da Vinciサージカルシステムを用いたロボット直腸手術を湘南東部地域で最初に導入しました。2021年末までに60例強の手術を3人の腹腔鏡技術認定医で行い、大きな合併症なく経過しております。それに伴い、部長の五代がプロクター（指導者資格）を取

得し、2人の医師がda Vinci執刀10例を超えました。今後は技術認定医を取ってなくても、消化器外科医を取得したローテーターに執刀していただく予定です。

また、2020年6月から開始した「直腸脱に対するロボット支援下直腸固定術」は20例以上施行し良好な結果を得ております。この内容が、論文掲載されたので、引き続き大腸癌だけでなく肛門疾患にも対応できる病院として精進してまいります。

この様な形で、新しく良いものを取り入れる精神で試行錯誤しながら進めております。

何かやりたいことがある方、試してみたいアイデアがある方、是非当院に遊びにいらしてください。職員一同お待ちしております。

(文責：鈴木紳祐)



NTT東日本関東病院

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22
TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558

NTT東日本関東病院の近況報告です。昨年度までは消化器・腫瘍外科からは樫山将士（H14卒）、池田孝秀先生（H27卒）の2名体制で勤務しておりました。2022年度からは1名の体制となっております。退任された古嶋薫先生（S54卒）が週に1度、引き続き肛門疾患の手術指導をいただいております。2021年の予定手術は約1,300件で緊急手術は約100件でした。一昨年度、新型コロナウイルスの影響で200件ほど手術件数が減少しましたが、2021年度は平常時の手術件数にまで回復しております。

NTTの外科は上部、下部（2チーム）、肝胆膵、ヘルニア一般の5チームで編成されており、そのうち樫山は下部チームリーダーを任されております。池田先生は各チームを3か月毎に上部、下部、肝胆膵、ヘルニアと全領域を満遍なくローテートし、消化器外科専門医に必要な症例を経験しております。

大腸癌手術は原発切除が約200例/年を維持しており、直腸癌も約60例前後を維持できております。大腸癌手術数に関しては都内での症例数の比較的多い施設となっております。消化器内科で内視鏡治療に力をいれているため、院内からの紹介症例数が多いという幸運もあります。が、きっちりとした外科治療ができていられるのも選ばれて

いる理由だと思っております。手術は腹腔鏡手術を中心に行っておりますが、一定数開腹手術も経験できるようにもしております。また、2018年10月から導入した直腸癌に対するロボット支援下手術も、年を追うごとに症例数を増やしており、2022年5月までには100症例を達成する見込みとなっております。2020年1月からは術者資格が緩和されたのに伴い、助手経験数も重要になってくると思います。助手資格のない先生には病院負担で助手のcertificateを取っていただいて、手術に参加してもらいます。

また、上部チームがロボット支援下胃切除術を開始しました。食道切除も併せて開始する予定となっております。他のチームにおいても、腹腔鏡下肝切除の加えて、膵切除、癒痕ヘルニア、鼠経ヘルニア、虫垂炎症例も積極的に腹腔鏡手術を導入しております。

都内で、横浜市大出身の医師がほとんどいない病院ではありますが、横浜とは異なった治療や手術手技が学べますし、下部消化管の腹腔鏡手術や消化器外科専門医に必要な症例が幅広く経験できると病院だと思います。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

（文責：樫山将士）

医療法人社団 松田会 荒川外科肛門科医院

〒116-0002 東京都荒川区荒川 4-2-7
TEL 03-3806-8213 FAX 03-3803-7224

1960年3月16日、東京都荒川区荒川に誕生した肛門科中心の19床の診療所である。院長の松田好雄先生は第2外科で、大腸疾患を研究され、中央検査室では、外科の病理標本の研究に携われた。その後、帝京大学医学部附属病院外科の講師になられた。先生はある日突然、「開業する」と宣言。ご開業後、37年となる現在も現役の消化器、肛門外科医としてご活躍されている。

ご開業も37年が経つと医院の周辺に住む人々との付き合いは、単に患者と医師という関係だけでなく、厚い友情が続き、今でも家族ぐるみのお付き合いになっている。総患者数は2月には11万人を超えている。

現在、診療・検査・手術は、ご子息の東京医科大学外科出身の松田大助医師が中心となっており、法人化されたのち、ほとんどの院長業務も担っている。肛門外科手術を軸として、診療は、二本立てで ①肛門内科・外科、一般外科、消化器内科など ②IBDチーム医療。約5年と日が浅いが特にG-CAPでは大学病院からの依頼もある。4名の常勤医（日本医科大学付属病院消化器外科から1

人）と、その他約6名の非常勤医で対応している。

2021年4月から東京大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムの一般外来研修をお引き受けしている。

痔疾患の手術は、腰椎麻酔下に施行し、ALTA治療・痔核根治手術・裂肛根治手術・痔瘻根治手術・直腸脱などである。新型コロナ下でも2020年と同様に、総計約1,000例と変わらず、中でも痔瘻は286件で複雑痔瘻17例であった。

また、上下部消化器内視鏡検査、腹部超音波検査を行っており、内視鏡検査数は、上部は3,764件、下部は5,266件であった。腹部エコーは、2,258件で、専門の検査技師が行っている。

新型コロナ感染拡大は2020年から引き続いており、感染拡大の終わりが見えない状況である。幸い職員は未だ感染からは逃れているものの、オミクロン株の感染力の強さを身近に感じるようになった。その中で日常診療を平常心でこなしていくのが、目下の責務であると思っている。

（文責：大高京子）

令和4年度 関連施設勤務者

(2022年4月現在)

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2
TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

診療統括部長 藤井 義郎 (H3)
外科部長・化学療法センター長
松田 悟郎 (H5)
外科部長 清水 哲也 (H9)
外科医長 木村 準 (H15)
医 師 柿添 学 (H16) 矢澤 慶一 (H20) 後藤 晃紀 (H20)
大石 裕佳 (H26) 窪田 硫富人 (H29)

●横浜市立市民病院

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1-1
TEL 045-316-4580 FAX 045-316-6580

消化器外科科長 部長 望月 康久 (S62)
消化器外科部長 高橋 正純 (S58)
消化器外科医長 田中 優作 (H19)
消化器外科副医長 山本 淳 (H23)
医 師 工藤 孝迪 (H27)
炎症性腸疾患 (IBD) 科 科長・部長 (炎症性腸疾患センター長)
小金井一隆 (S61)
炎症性腸疾患 (IBD) 科部長
辰巳 健志 (H12)
乳腺外科科長 部長 石山 暁 (S58)
乳腺外科部長 鬼頭 礼子 (H9)
医 師 門倉 俊明 (H18) 藤田 亮 (H28)

●藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢2-6-1
TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

診療科主任部長 医療安全管理部長
患者総合支援センター長 ゲムノセンター副センター長
山岸 茂 (H7)
専門医長 牧野 洋知 (H8) 大田 洋平 (H16) 浅野 史雄 (H17)
森 康一 (H21)
医 師 中崎 佑介 (H25)
乳腺外科 診療科部長
菅江 貞亨 (H12)
呼吸器外科診療科主任部長
吉本 昇 (H5)

●伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡196-1
TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

副病院長 兼 診療部長 兼 外科部長
神谷 紀之 (H4)

●横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂1-3-2
TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

管理者 兼 病院長 関戸 仁 (S58)
副病院長 長嶺弘太郎 (H6)
主任医長 中山 岳龍 (H20)
医 師 藤原 大樹 (H24) 池田 孝秀 (H27)

●茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

乳腺外科部長 嶋田 和博 (H15)
乳腺外科医師 和田 朋子 (H20)

●横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町3211
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

包括的乳腺先進医療センター長 乳腺外科部長
千島 隆司 (H3)
乳腺外科医師 井上 栞 (H27) 柴田侑華子 (H27)
非常勤医師 原田 郁 (H20)

●横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通1-16
TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

病 院 長 長堀 薫 (S53)
消化器病センター長 外科部長
舩井 秀宣 (S62)
外科部長 野尻 和典 (H12)
医 長 吉田 謙一 (H8) 小野 秀高 (H10) 南 裕太 (H13)
諏訪 宏和 (H15) 鈴木 千穂 (H22) 矢後 彰一 (H27)

●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

外科部長、肝胆膵外科部長
杉田 光隆 (H5)
食道・胃外科医長 佐藤 圭 (H18)
医 師 土屋 伸広 (H20) 田 鍾寛 (H21) 大西 宙 (H21)
村上 剛之 (H25)
院長補佐・乳腺外科部長・国際医療部長
清水 大輔 (H8)
医 師 木村 安希 (H25) 須藤 友菜 (H26)

●済生会横浜市南部病院

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10
TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

副院長 主任部長 入退院支援センター長
福島 忠男 (S62)
外科部長 長谷川誠司 (H2) 上田 倫夫 (H6)
医 長 三宅 益代 (H21) 荒木謙太郎 (H22) 佐原 康太 (H24)

●JCHO横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

病 院 長 池 秀之 (S54)
診療部長 上向 伸幸 (H6)
部 長 谷口 浩一 (H11)
健康管理科部長 簾田康一郎 (S60)
医 師 有坂 早香 (H20)
非常勤医師 足立 祥子 (H22)
検 査 科 窪田 徹 (S61)

●横浜掖済会病院 外科

〒231-0036 横浜市中区山田町1-2
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

副 院 長 佐藤 芳樹 (S59)
部 長 山口 直孝 (H13)
医 員 前橋 学 (H24)

●NTT東日本関東病院 外科

〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22
TEL 03-3448-6111 FAX 03-3448-6558

医 長 樺山 将士 (H14)

●長津田厚生総合病院 外科

〒226-0027 横浜市緑区長津田4-23-1
TEL 045-981-1201 FAX 045-981-1205

副院長 外科部長 森 隆太郎 (H12)
医 師 中畠 雅之 (H14)
非 常 勤 原田 郁 (H20)

●育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

院 長 長堀 優 (S58)

●港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台2-7-41
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

院 長 大塚 裕一 (H8)
医 師 清水 康博 (H22)

●よこはま港南台地域包括ケア病院 〒234-0055 横浜市港南区日野3-7-15
TEL 045-835-2000 FAX 045-835-2008

医 師 朴 峻 (H23)

●帝京大学ちば総合医療センター 外科(肝胆膵) 〒299-0111 千葉県市原市姉崎3426-3
TEL 0436-62-1211

助 教 村上 崇 (H18)

●聖路加国際病院 乳腺外科 〒104-8560 東京都中央区明石町9-1
TEL 03-3541-5151

医 幹 喜多久美子 (H17)

●松島病院 〒220-0041 横浜市西区戸部本町19-11
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

理事長・総院長 松島 誠 (S53)

医 師 松村奈緒美 (H5)

●藤沢湘南台病院 〒252-0802 藤沢市高倉2345
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

副理事長 副院長 大腸肛門病AELICセンター 副センター長

患者総合支援副センター長

鈴木 紳祐 (H19)

ERセンターセンター長 外科担当部長(救急)

小泉 泰裕 (S61)

●関沢クリニック 〒236-0053 横浜市金沢区能見台通8-28
TEL 045-786-8852 FAX 045-786-9293

関澤健太郎 (H19)

●荒川外科肛門医院 〒116-0002 東京都荒川区荒川4-2-7
TEL 03-3806-8213

院 長 松田 好雄 (S43)

副 院 長 大高 京子 (S56)

●医療法人社団康喜会 東葛辻仲病院 〒270-1168 千葉県我孫子市根戸946-1
TEL 04-7184-9000

院 長 松尾 恵五 (S59)

●特定医療法人社団鵬友会 湘南泉病院 〒245-0009 横浜市泉区新橋町1783
TEL 045-812-2288

センター長 三邊 大介 (H2)